大正十二年十二月二十四日第三種郵便物認可 毎月一回十五日發行
大正十五年一月十三日印刷納本 大正十五年一月十五日發行

第四十九輯

大正十五年一月

◆大地吾等を呼ぶ……西田天香
◆托鉢の往還二相……中桐確太郎
◆一燈小話……松下吉衞
◆武藏野道場の歌……磯山松男

同人懺悔報恩の奉仕者
祈願 不二の光明によれる生活
費用 供養されたる淨財

◆琵琶湖畔より……相武次郎
◆鷄林だより……すゞき五ろう
◆未明の先驅者(四)……水上鐵治郎
◆英國社會運動史(三)……松下吉衞
◆東京一燈園より……谷田部信量

一燈園・宣光社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

光明祈願（暫定）

不二の光明は宇宙に遍滿する陽光の如し。物あり、之に觸れて色々の光を發す。光明祈願は即ち起稿者識界の現象に過ぎず。添すべく、削すべく、正さゞる可らず、改作また不可なし。暫定と名づくる所以なり。

不二の光明によりて新生し許されて生きむ。

我等は先づ不二の光明によりて復活新生し、神に委ね佛に養はれ他に障りなき生涯を送らざる可からず。

諸宗の眞髓を禮拜し歸一の大願に參ぜむ。

內外古今諸宗の眞髓を禮拜すれば、歸一の大願は正に左の如くなる可し。

通願　皆俱成就大圓覺

別願　將來世界眞平和

別に一宗を立てず、單に一宗に偏らず、古今聖者の光を仰ぎ德を頌し、その遺されたる事業を成就せんことを期す。

懺悔の爲に奉仕し報恩の爲に行乞せむ。

世間一切の罪惡苦患、何人かその責を脫るゝことを得べき。願くば常に懺悔の心を持して十字街頭に奉仕し、菩提心によりて行乞し、以て法界成就の本願に副はんことを。

法爾の清規に隨ひ世諦を成ぜむ。

天眞法爾の戒相に則り、六度の行願に隨ひ、治生產業に即して眞道を行じ、永久眞平和を將來すべき生活法を實證し、以て在家俗諦を成就せんことを期す。

即ち天華香洞に歸り無相の樂園に逍遙せむ。

達觀すれば實にも此世は寂光の淨土、妙樂の天國、文明の隆興も進化の事象も乃至清規戒行も、此の見地よりすれば即ち一の遊戲三昧に過ぎず。憾むらくは、個中の消息もとよく言辭の勞露し得る限りにあらざるを。暫らく此の實相に名けて天華香洞といふ。天華香洞の門、假りに名けて一燈園となす。道に志して尙自ら立つ能はざるもの、乃至老、病、幼者等の爲めに設けられたる一の化城とも見る可し。その存立は喜捨の淨財に成り、在園はその清規を守ることによりて許さる。

天華香洞に立ち、信託を受けたる財物事業の整理經營等に從ふを假りに名けて宣光社といふ。宣光社の目的は世間の執迷紛爭葛藤を根絕し、以て齊家治國平天下を期するにあり。

天華香洞と一燈園と宣光社と、三位にして一體、通じては即ち無相不二。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

大地吾等を呼ぶ

滿鮮托鉢を終へ京城にて　西田天香

默つて働いてゐるとき一番無事だ。
尋ねられて答へるときその次ぎの無事だ。
よしや頼まれても種々の方に聽いてもらつて話しをする時危いことおびたゞしい。
それが書いて殘される雜誌の原稿は、私にはいつも苦しい負擔である。

『私しより賢い方、偉い方が澤山ある。足らぬだらけの私である』といふことがすぐに頭に浮む。『今の思想や學問に暗い。技術がない、今風の金儲けの法にも暗い』といふやうなことも胸にある。『新聞も讀まぬがち、年も五十四歲だ。』などとも遠慮する氣持も出る。どの樣な方が讀んでゐて下さるかも知れぬと思ふとき、萬年筆を持つてボーッとする。

曾つて園にきてくれた方。今現に修行してゐてくれる方。此頃は會ひもせず手紙の返事も怠りがち。定めて種々の實際問題もあらうものを。せめて雜誌でゞも會ふか、聞いてもらわねばなどゝ思ふと、また何から書いたらよいのかとぼんやりする。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

聞かせてもらいたいことも山ほどある。聴いてもらいたいことも山ほどある。けれどもそれがうまいこと書けぬ。

おひかりのお力で足らぬ私をみちびいて下さい。又おなおじ力で此おもひのありのまゝを、私を知ろうとおもふて下さる方にかよわせて下さい。

年の暮にあふ毎に一年中の足らぬことを思ひ込む。調子に乘つて言ふこと爲す事が、多くの方々にイヤな感じをさせてゐやしないか。左から聞いてくれた人に答へた話しが、右から聞く人にさわりになつたり、上の人の尋ねに答へた言葉が、下の人の不了解となつたりすることもあろう。叩かれ工合で鳴るのであれば、私は何も話したのでないかも知れぬが、それを理由に無關心ではゐたくない。すべて私の足らぬことゝおわびしたい氣持がする。

けれども原稿を書かねばならぬ。香港丸で書いたのも哈爾賓で書いたのも中途半端。汽車中での書きかけもまとまつてゐない。新たに書こふ。

正月の雜誌に出るのだなあ!。それかとて今正月の氣持にはなれやしない……。書かねばならぬとなるならば、書きたいことは澤山ある。『滿鮮』といへばたつた二字になる。けれども東洋の鎖鑰は滿鮮とも云へる。世界の問題の重なるものゝ一つは『支那がどうなるか』でないか。殊に此頃の支那は又爭覇の戰爭中で、是には露西亞もからまつてゐるそうだ。それが此頃は奉天を一

つの中心として双龍玉を爭つてゐる。されば『滿鮮』の二字は世界の重な問題を抱いてゐるのである。

そこを隅から隅まで三ヶ月がゝりに見學と講演とをして、種々の階級の人々に會ふた。歐露の端と獨佛の奥迄接續してゐる廣漠無際の空と土地なる大陸や、徹頭徹尾黑い衣服の滿洲の人と、徹底して白衣揃ひの朝鮮の方の兩風俗も見た。感慨が無くて何としよふ。そうしてそれが皆一々一燈園生活と宣光社の規範の必要をさけんでゐるかの樣に思はれるから大變である。毎日色々なことをそれからそれへと考へさゝれて、ほとんど整理するひまがない。何やらの芝居での誰れやらのせりふじやないが、『船につんだら千石船、車につんだらエンヤラサー』と云ひたい樣な氣持がする、たとへそれがヤクザな考へであるとしても。

あゝ、けれども、なんぼう澤山あつたとて、感想だけでは雜誌の糧にはならぬ。正月の分に年の暮のものでも仕方がない。出しやすい所からありのまゝを書くことだ。

こんなことを思ひながら、今日は已むを得ず原稿用紙にむかつたのである。

大正十四年の今日は十二月十四日。十二日に釜山の最終の講演を無事にすませた。顧みると大分長い間である。京都を出たのは九月の十二日、翌十三日神戸を出帆した香港丸は門司で數名の光友に見舞はれて、十六日に大連の埠頭に着いたが、今日で丁度九十五日目。大連から滿鐵沿線を旅順、營

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

口、大石橋、遼陽などの大停車場の外、中間驛の重なる處を縫ふて奉天で三四日の連講、鐵嶺、四平街などの大停車場と又その中間重要驛を巡講して長春で滯在。長驅哈爾賓まで呼ばれた日の翌日公會堂での講演も官民滿堂の聽衆であつたが、恰も此日は伊藤公爵遭難十七年目の正當忌日で十月二十七日であつた。

哈爾賓を北の行き端として、長春奉天と引返し、安奉線を安東驛迄通り越し、鴨綠江をはさんで朝鮮の地を眺め、そこから逆に鳳凰城、鷄冠山、本溪湖など日淸戰爭時分のなじみある所十數ヶ所をはなしまわり、最後に撫順の炭礦地が三日。一旦大連に引あげて、殘りの賴まれ講演をはたし、滿鐵本社と關東廳にも挨拶して大連を出發したのは十一月の十八日の夜であつたが、講演は丁度百回。沿道各地に澤山に惠まれた同情ある光友を後に殘して安東驛より鴨綠江の大鐵橋を渡つたときは、ヤレ〳〵無事に一段落と感謝した。

その日から朝鮮のプログラムに移る。定州に始まり平壤に二泊、鎭南浦に飛び京城に着。こゝに數日の見學講演。總督府、鐵道局、修養團外有志の厚意をうけて、元山咸興と東北の端を極め、再び京城に歸つて或は仁川、或は太田、群山、木浦と巡講し、此間全州、光州の二道廳の招聘に應じ、太田に引返して大邱に錫し、僅かに馬山を割愛して釜山に最終の講演をなした。此日一日四回に及び、道廳、府廳、各學校、停車場、倶樂部等招請を果して茲に滿鮮の巡講見學を終つた。前後通じて百四十四回幸ひに一回の障りもなく、短きも二時間を下らず長きは三時間と半時に及んだけれども、氣疲れず聲かれず、乘り通し話し通しに、應接を兼ねての忙しさに、手足の運動を怠りし爲めか右手に少しのさわ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

りある外、身體至極安健である。朝鮮でも非常な盛會、光友を惠まれたこと滿洲に異ならなかつた。慶州は新羅時代の古都。佛國寺、石窟菴、多くの古陵等に、千數百年以前の朝鮮文化の絢爛を語る。釜山より京城に引揚ぐる途次、一日此地に遊びて昨朝京城に歸る。

地圖を展べて各線の哩數をしらべ往復幾回かの乘程を數へしを聞けば、京都への歸路を加へて、船と汽車とでまさに七千五百哩に及ぶとか。思へば大分長い道のり、聽講の人も五萬人内外あつたろうといふから、兎にも角にも私には勿體ない。『活動寫眞や浪花節には能く集るが修養の話し學術の講演には頓と集らぬ』ときまつて居たのが、到る處むしろ反對な現象を現はして、或處にては活動の興行と二日ぶつゝかつたのが、一燈園の話しに人が吸集されて、活動は一日で損をして中止になつた所もある位。附添つて來て下された人が喜んで下さるのを聞けばうれしくもある。矢張一つは修養を必要と感ずる時になつたのと『一燈園』と云ふ名が隨分廣まつてゐて、多くの人々の興味を起させてゐる爲めらしい。かうなると責任も重く、又自信も深くなる。滿鮮の大陸の要處々々の重もな方々に『一燈園生活』はかなりに深い印象を持つてもらつた事は爭はれぬ事實であつて、私の魂も隨分深く滿鮮の大地の底へ神によばれたことは疑はれぬ。

『おひかり』は誰れの魂にもひそんである。私を呼ばれた發端は松園泉氏と云ふ人であつた。滿鐵鐵道部内で硬骨な人で、私は巡講中私の世話に付いて呉れた係りの人から此方の逸事を澤山聞いた。何年越しかに一燈園を呼ぶことを運動してその目的が達し、先發として末廣、盛の兩氏が大連に着か

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

れた前日、會社を辭して父母孝養の爲めに東京へ歸られたそうだ。

『行きがけの駄賃と云ふてはすみませぬが、私が會社へつくす最後の土産のつもりでありました』といふ様な手紙を東京から貰つたのでも、如何に『一燈園を滿鐵へ』と念願して居られたかゞ分る。此位に思はれるだけ此人の眼には滿鐵に一燈園生活が非常に必要と感んじ切つて居られたらしい。おひかりは色々の人に色々のすがたとなつてかゞやいてゐる。一冊の『懺悔の生活』も此樣に且多くの人に讀まれてゐるかと思ふと冥加にあまる次第である。自分も松園氏には會はないけれども、其知己の情をしたゝかに感じた。處々から手紙を出した。滿鐵及友人からの感謝と善い報告を聞いて喜んで居るといふ手紙も貰ふた。百回の講演と其反響は必らず松園氏の知己の熱誠に背かなかつたことゝ信ぜられる。

大連先發の二氏と同時に朝鮮への先發は、鈴木五郎三上和志の兩氏であつた。私と同道したのは保太郎氏で、あとから大連の有志に呼ばれて托鉢にきたのが七人で、谷野、山崎、東海林、峰岸、の四氏と勝淳(かなひ)と梶浦たね子の兩女に、滿洲に曾つて托鉢したことのある廣島の渡邊輝一氏とであつた。岩部成正氏は曾て暫く入園した大連の人、同じ經歷で旅順の姉の家にきていた水戸川くら子、大邱を中心に托鉢心にて農桑の業に從事せる園同人、李命錫、許範、其妹女、鈴木八重造の四氏、海州にゐる原氏と新たに入園托鉢せる川合三郎外三氏と急に長春迄來た宇戸つる枝女とを加へて合計二十五人の大勢が或時は密集し或時は分散して托鉢共禱したのである。(原氏だけは四五日中に會ふはづ)滿鮮かけて二十四人の托鉢、考へて見れば大袈裟なこと、是が少しも無理でなく多くの人に喜ばれて居るの

は不思議な様である。内地にはいかゞわしい托鉢を名として食ひまわる人があるとかで、一燈園も迷惑これにかゝる人も御迷惑、それかとてどうすることも出來ないので、皆私の不徳と心であやまつてゐるのであるが、此地では全くの聯絡ある筋の通つた人達の托鉢で、托鉢さすおうちにも安心してもらへる水入らずの合掌(おが)みあひでありがたい。私だけはおしやべり托鉢、それに家内は半分見物さしてもらふた様になつてすまないが、年に免じて許してくれたらしい。

午後七時一寸筆を止めて京城驛にゆく、保太郎氏を急に奉天に往かす要事の打合せをする爲めである。

此汽車で齋藤總督は京城驛に着された官民の出迎非常に多い。湯淺總監の決定と産米増殖の大計畫を基礎として、鐵道、港灣、道路、治水、治山等を含む産業政策の根本が確立されて歸られたのでの喜びと、前下岡總監の長逝を惜しむ愁色とがたゞよふてゐる。星野氏の家に歸つて新聞を見れば内地の殊にお目出度い事と支那の戰爭とで記事がうづまつてゐる——

○めでたき御七夜に　皇孫殿下の御命名があつて『照宮成子内親王』と仰出された事と、之れを奉祝する國を擧げて歡喜のひゞき。

△楊村の大激戰で李軍の大捷、二萬の國民軍全滅。塹壕は屍で埋めなどゝ書いてある。

奉天城内は大混亂。郭松齡軍の主力は溝帮子に達し、張作霖は死物狂ひで進退兩様の策戰をして居るとある。

又原稿を書きに部屋に入る、寒かろうとて屛風を立てゝ硝子窓をかこひ、すきであるとて蕎麥や關東煮の御馳走になる。あゝ勿體ない〳〵。

『又支那が戰爭期に入つた』とは私が奉天から長春に巡講する頃のうわさであつた。哈爾賓では滿

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

鐵の調査課のK氏のお世話になつたが、此の熱心な滿蒙大策を聞くうちに、昔し成吉斯汗が興つた發祥の地である外蒙古の要地には、旣に某國の將校が澤山商人となつて外蒙古獨立の計畫をやつて居るとのうわさも付加へられたが、十數日を經て安東に着いた頃、其地方の獨立宣言と、是に對して支那の抗議が新聞に掲載されてあつた。

郭松齡が張作霖の命令で山海關方面へ出る頃は、奉天などは或は戒嚴令を布いたとか、小さなサーチライトで城内を照らすとか、時々滑稽に見える俄か仕立の兵隊さんが、キョロ〳〵と列を作つて動いていた外、『何處が戰さか』と云ひたい位のことであつたが、滿洲托鉢を無事にすませて朝鮮に這入つてから、急に郭松齡の豹變反逆で、張作霖と奉天城内は死活の運命を定めらるゝ事となつた。此間僅かに一週餘日。前には滿鐵奉天公所の樓上で、眼前に張作霖の大邸宅を眺め、『此邸内の主人公こそ兎にも角にも支那四百餘州を半ば掌中に弄して居るのだが』と、一種の妙な驚異を感じたものを。週餘の後には、所謂児飼ひの郭氏に裏切られて、張氏全盛の幕は過ぎ、九轉直下齒ぎしりするも又及ばぬ事となり果てた。

橋本氏(靜坐と工科學堂の先生で一燈園生活に特別好意を持つ方)と關東廳の高官方の催しで、旅順で約三百名の紳士諸君に『滿洲見學後の感想』を語らされた時の話しのうちに、『因果はめぐる』といふ氣持を述べて、日本人の滿蒙の利權についての心配をもらし、何れにしても各民族共『懺悔の生活』が緊急必要な事の重もなる一つであると結論したのは先月の十七日の夜であつたが、この『因果はめぐる』が張作霖に急下して、昨年馮玉祥と握手して、吳佩孚を追ふた同じ筆法で馮と郭とに喉

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

首を締められることゝなつた。覇者の運命は朝露の樣に脆ろく、權道の盛期はまことに槿花一朝の榮と同じであることをつく〴〵思はされた。

それに引かへ難有きは一燈園生活。大袈裟な物資と軍隊で、張郭兩軍の對峙せる戰線の中と、それに伴ふ附近の不安の內を、縱に貫いて無一物の托鉢行脚。張家の夫人達は避難に忙しく長子の張學良は前線に惡戰するを、我妻子は同じ處を經めぐりながら、多くの人に愛されて何の矢玉の危さもない。如何なる事も誰れのことも皆我等の懺悔を要することながら、己れの生活に直接罪業を造らぬだけの惠みが豐かで、勿體ない程の自由と安全と歡喜がある。加之此懺悔の生活は、爭奪をせねばならぬ覇者の群れと、掠奪と苛斂と誅求とをされる支那民族の爲めにも、根本的の禱となつてあるだけに、自分の心は感謝と法悅を禁じ得ない。

大連は滿鐵本社のある處。此頃は國產穀類豆類の大出荷時で、埠頭にはこれらの大きな岡が出來て居る。此大輸出に相應する輸入を扱ふ港は、何といふても滿蒙の咽喉である。一燈園と私等の祈りが、こゝに始まりこゝに根據を置くべきは當然の事てある。滿鐵本社庶務部の社會課と、鐵道部の庶務課の方々に色々厚いお世話になつたことや、講演托鉢の有意義なる反響を、此まゝに打ちやることのおしさに、色々後に具體化して殘すやうにと祈らるゝことなどについての記事は別にしても、滿鐵の外の有志が別に托鉢者を招かれたことはこゝに書くのが落付くと思ふ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

二十餘年前の舊友に松村久兵衞氏といふ方がある。大連で成功された實業家で、今は大連倉庫といふを持つて居られる。私等の本陣は、ほとんど此松村氏の厚意にあまへて、氏の邸宅を煩した。主人夫婦は內地へ往かれる『留守番の托鉢を賴む』の一言を殘して、中途に內地へ出發される。私の家內が臨時一燈園事務所の當番、私が歸連すれば二三の同人が止宿する。いやはや隨分厄介になつた。『六ケしい事は分らぬが金がいつたら云つて下さい』とあつさりと無邪氣な隨喜。自分はすなをに好意を受けた。勿體ないことである。

滿鐵の方ではあるが、前から個人で一燈園に厚い共鳴を持たれた方に、道正、岩部、植田の三氏がある。純眞に園の生活を體驗して共禱を惜しまざる人。蔭になり日なたになつて心からの取持と世話をされる。何たる因緣ぞや、難有いことである。托鉢者六人は最初此四氏の招聘に依る。松村氏一人にて三人を、あとの三氏で三人を呼ばれ、何れも己れの便宜にせずに有緣の家に配られる。往復の旅費を供養して他の爲めに托鉢者を配緣するのは善い功德である。招かれた六人の托鉢者は引つゞき今でも大連で托鉢を續けてゐる。同じ好意の久保洋行主人と某夫人の隨喜も加つて二人を增し都合八人が祈つてゐる。

私の始めの講演に熱禱的紹介をなし、最終の送別會に過分の讃辭を與へられし千葉氏は人格の方で、よく一燈園の使命を理解さるゝは非常の强味であり、他の多數の添禮さる方々と共に、大連には必らず何等かのおひかりの根が下ろさるゝことゝ信ぜらるゝのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

鎮南浦の公會堂で講演を終へんとする頃、下岡政務總監逝去の報を得た。此地に富田儀作翁といふ朝鮮産業の功勞者がある。一燈園を齋藤總督に紹介されたのも此方で、たしか六十八歳とか云はれましたが、壯者に劣らぬ壯健さで敬慕すべき人である。下岡氏とは同郷の間柄。總監在任中の至誠と經綸など、翁より聞いて一段の輝きがある。惜しき人に逝かれたのは朝鮮にとつても大損害である。

ほとんど殉職と云ふてもよき人に、滿鐵の早川社長がある。奉天の小學校で講演をなさんとして講堂に入り、小高き壇上の直下を横ぎらんとする時、下に銅板がありそれに文字が錄されてあるのに氣附いた。ハツと思ふてよく／＼見れば『滿鐵社長早川千吉郎君逝去の處』といふ意味の文字が讀まれた。しばし立止まつて敬意を表し、就て傍人に聽けば、奉天の關係の人々に何か話しを爲すべき事あつて、演壇に立たれ、腦溢血でゞもあつたのか、前に倒れ伏してそれ切りになられたのであると。銅板の處はその倒れられた場所だと聞いて、深いため息をしたことである。

哈爾賓のプラツトホームを、伊藤公爵遭難の十七年目の正當忌日に踏み、早川社長殉職の壇上に立ちて滿鐵の爲めに講演し、鎮南浦の講了時に下岡總監の長逝を聞く。これ此度の滿鮮托鉢中に觸れた三弔事であるが、何れも國の爲めに捧げられた至誠は死せず、『あゝ御苦勞樣であつた』と合掌せずには居られなかつた。

内親王の御安産も講演中に承つた。全羅南道の光州道廳の主催で、知事始め官民四百名程の集りであつたが、九時半に講了した跡に立ちて、松井内務部長が『只今手にせし報道によりますと』と嚴か

に八時十分の御安産を一般に告げられた。何とも云へぬ喜びに又おのづと手が合はされた。支那の戰亂の年中行事の樣に打ちつゞくのは、支那には忠義の的がないからだとも云へよう。京城の南山に造營された朝鮮神社に參拜（京城で一行が非常にお世話になつた園田寬氏に伴はれ）した時の事、此日は丁度神嘗祭で、官民正裝して參拜されていた。宏壯でまだ木の香の薰る神殿は、同じ新しい拜殿より續いてある。うらの蒼々しい南山をひかへて、嚴かなこと云はんかたない。見上げれば今しがた、衣冠束帶の祭官の方が、低からぬ階を靜々と登られる。何と云ふ名か高い冠りの曲がつた尾のゆら〳〵と動き、長い裳の階段をおよぐとき、たゞもうそれだけで頭が下がる。國の興るは一朝一夕の事ではない。又衰亡するにも遠い原因がある。滿鮮を行脚して此思ひひし〳〵と胸にせまる。『國を肇むること宏遠に、德を樹つること深厚なり』の御勅語がピタッとひゞく。『外國に居る時ほど愛國心が起る』といふ人があるが、低級な愛國心は困つたものだが、然らざる限り同感である。御卽位式に遊ばされる神々しき御大典や、賢所を中心として國土と臣民をみそなわす 皇室は、わけなくて難有い。理窟をつけての皇室中心主義や、又理窟づめの反對な思想など私には分らない。此稀有の皇室をいつまでも慈悲と愛との結晶として榮へるやうに懇禱し、それにそふべき輔弼と政治を願はしう思ふ。

一燈園生活より滿鮮を見るに、そこにおびたゞしい問題が現はれてくる。學ばされることも澤山あれば、參考にして貰つてもよい事も澤山ある。滿鮮地方の人々が、かくも我々を愛してくれられ、到る處多大の共鳴をされたのを見れば、東洋のバルカンとも云ふ此一帶の地に一燈園生活の如何に必要

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

であるかを證することが出來る。人の呼ぶにもまして『大地の底つ根の神』が呼ぶ。見るがよい、千里際涯なき滿蒙の沃野をば、千餘年にわたつて人類が互に爭奪してゐても、少しも咎めず高粱や粟や包米や大豆を實らせてゐてくれるでないか。少しく手を入れゝば大きく惠まれ、人は休めど自然は息まず、石炭や鐵を多量にいだき、懇ろにいたわつて人類の反省を待つてゐる。之れに反して愚かなるは、我等が執せる『人ごゝろ』であるまいか。疑ひあひ奪ひあふて互ひに安んぜず、欺きあひ戰ひあふて滅亡を急ぐは餘りに思慮がなさ過ぎる。輕々しく『義』をさけぶも、同じ穴を掘つて己れの身をも埋むるに終るなきかをあやぶむ。

慶州の古都に大きな古陵と遺蹟を見、佛國寺の靜寂幽雅な樓閣を訪ね、石佛菴に東洋一の美術と銘ずる石佛に詣で、新羅時代の全盛と佛敎の興隆を忍ぶに、趣味と藝術と歷史硏究の爲めより見るの外、幾多の疑問と淋しさがわいてくる。古墳より出る五冠腕輪さては馬蹄に至るまで鏤ばめたる多量の純金銀や、奉德寺鐘（有名なる大鐘）に鑄込みたる四千五百貫（より處ありげな說明に基く）目の純金などより推し、當時方何里かに百萬の人口を擁しての王都豪奢の模様を想像するに難くないが、其統一した三韓全土の民生は爲めに反つて瘦せ枯れたのではあるまいか。苛斂誅求は自暴自棄の民を作るに最もふさわしい。買官商職の人、上にあれば山枯れ家細かきに至るは當然である。佛敎隆んにして其國かくの如くに至つたとすれば、その佛道疑はしく、佛敎すたれて新羅亡びたりとするも尙その所謂佛道に疑なき能はずである。佛像や梵鐘が佛道の骨髓でないのは無論である。鷄林八道當時の

佛道は僅かに皮相の藝術を殘して骨髓のおひかりを失つたのであるまいか。地上の人に尋ねんよりは、矢張『大地の底つ根の神』にきゝたい氣持がするのである。執はれた『人ごゝろ』で扱ふ愛や慈悲もあてにはならぬ。若し無爲無作のおひかりより出たのでなくば、佛道にも榮枯盛衰がつきまとふ。千年にわたつて欝蒼たる森林を燒きつくし來つたのをも咎めずに、種をそだて芽をふかして、善き政治と良き人心を待つ靜かな大地は我等を呼ぶ。

今の所謂文化に引きずられては何事も末枝であろう。宗教も教育も藝術も實業も、政治と共に根の神に聽いて建直しをせねばならぬと思はれる。『懺悔の生活』は此禱りをはなさぬ樣にと念願する。意氣地なしと云はれてもよい。廣い空間と長い時間に笑はれぬやうにとこそ思ふ。

一昨年の年の暮れ、『足らぬだけ佛にわびて年くるゝ』と思はず出た。今年も矢張同じ想ひ。先輩、光友、同人の方々にもすまぬだらけで大正十四年を送ります。どうか許して下さいませ。

修養園の先生である宇津木氏は朝鮮に於て非常に祈り添へられて勿體なし。修養園と一燈園は各地にて兄弟の樣にはたらかせてもらふてゆく。筆をあらためて滿鮮の土産話しのうちに書くことにします。私は年の暮前に京都に歸り正月は滞在のつもりであります。（大正十四年十二月十四日）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

托鉢の往還二相

中桐確太郎

私は舊臘中旬、帝大佛教青年會の御たのみにより『一燈園生活』を懺悔奉仕と俗諦成就との二方面より觀察して、いさゝか私見を申述べました。體驗貧弱なる私のことでございますから、定めし不徹底の感を來聽者諸君に與へたことであらうと、今更ながら慚愧にたへません。今また松下兄の御すゝ　に従ひ、その前半の一部分を、多少補訂して、左に掲ぐることに致しましたのは、未だ御聞き下さいません方々の御批正を仰いで、誤謬を少うせんことを希うてのことでございます。何分こもよろしく御願申上げます。

一

一燈園同人の行願の一つに懺悔奉仕の托鉢と名けてをるものがあります。これを往相還相とでも申すべき二つの方面より申述べて見たいと思ひます。

先づ還相とでも假りに名けますものは、之を天香師の經歴に結びつけて申しますれば、天香師が『爭はねばならぬならば、寧ろ死んだ方がよい』と決心せられて、御自分の財産と思うてをられたものを一切さゝげて、その御友達との間に起れる問題の解決に投ぜられました時、感得せられたといふ一の靈的體驗に始まると申すべきでありませう。此の時に得られた靈的體驗は、或は赫奕たる眞晝の太陽の如きものではなかつたかも知れません。併しながら夜闇を破つて現はれたる旭光の第一線であつたに相違ないと思ひます。人によりては、執迷の暗雲、深く鎖して、味爽のかはたれ時を長く經驗せねばな

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

らぬ場合もございませうし、またほの〴〵と茜さし昇り行きて眞晝の光景を呈するまでには、如何なる人にも多少の時日と拂拭の修業とを要することでありませうが、よし微弱であつても、眞に經驗せられたる旭日の光であつたならば、それは全く、是迄とは別なる新生活に入つたものであります。純眞素直の心にて之を享けますならば、その人は靈的永生を體驗したものであります。所謂る『朝に道を聞けば夕に死すとも可なり』で、肉體の生死などは問題でなくなつたのでありませう。

天香師は、その當時、果して此の如きことを鮮明に意識せられてをつたか否かは、わかりませんが、此の靈的體驗が、少くとも、潛在意識となつて、(『爭はねばならぬならば、死んでもよい』と決心せられた時と同じ程度の强さを以て)、心を支配してをつたことゝ信じます。此點より見ますれば、その後、鎭守の境内、愛染堂の椽側にて、靜座斷食を試みられたるは、主としては肉體上の生活問題の解決のために過ぎぬことゝ思ひます。よしやこれが爲に、遂に餓死せらるゝに至つたとしても、靈的體驗の本質には何等動搖を來すべきことはない筈でありませう。

尤も靈の外に、肉體及び精神を有する人間としては、かゝる折には、釋尊がなされた其の成道前の降魔の御經驗や、基督の四十日四十夜の荒野の試錬に於けるが如き、種々の誘惑が現はれ來るのを常といたしてをるものであります。のみならず、その後、機にふれ、緣に應じてあらはれたる行履、後に理想化せられて深き意義を有するものと解釋せられてをるものでも、之を發生的に見まするならば、人間の弱性より來る誘惑に起源を有するものであることが

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

少くないでありませう。身心を離れざる我等の生活に於ては、迷悟つねに相混し、聖凡多く相交はるを、寧ろ當然といたすべきでありませう。たゞ靈的體驗が明かであるならば、それによりて眞との意義をその中に見出すことができ、靈的體驗がしつかりしてをるならば、それを統導原理として、すべての行動を指配することができるのでありませう。此の永生の靈的體驗がすべての新生活の基礎であり、生命であります。此の上に立ちての種々の心身の經驗は一種の遊戲三昧と申してもよいと同時に、また此世の惱みに應じて現ずる無緣の慈悲ともなるものでありますが、天香師の愛染堂の靜座斷食は、その本質より申せば、此の靈的體驗に晏坐しての、生活問題解決のための試みに外ならぬといふべきでございますまいか。

斷食靜座二日三晩にして飢え、味爽、遙かに赤兒の泣聲を聞きて省あり、乃ち座より起ちて街道に出で道に落ちたる米を拾ひ集めて爰に人天の供養を味得せられ、此の許されて生きたる身體を以て有緣の家に奉仕して托鉢の眞義を體驗せられたのであります。此事は天香師御自身が『懺悔の生活』その他に於て屢々語られた處であります。

一燈園生活同人間に於て申してをります托鉢なるものは、奉仕によつて、愛を此世に作り出さんとするにあるのでありまして、釋尊が飢饉の年なればこそ托鉢するを要すと申され、基督が五つのパンと二つの魚とを以て五千人の腹を滿たさしめられたる芳躅の御主意を體せんことを祈つてをるのであります。

なほ此の托鉢を懺悔奉仕ともよびてをりますが、一燈園にて申してをる所の『懺悔』は、此世に存する罪惡苦患を主なる機緣として惹

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

起さるゝものでありまして、これは決して誇大の妄念でもなく、虚假の迷想でもなく、『永生』の靈的體驗には必然的に伴ひ來るものであつて、天眞無垢の人性に根據を有するものであることは、私も曾て、しば／＼申した事でございますから、此處には省畧させていたゞきます。

二

次ぎに托鉢の往相とでも申すべき方面を、新たに一燈園生活を修行せられつゝある方に結びつけて申しますれば、一燈園生活に新たに入らるゝ方のうちには、未だ『永生』の靈的體驗を有せられざる方もありませうし、また未だ世の罪惡苦患を主なる機縁としての懺悔を有せられざる方もございませう。たゞ天香師や其他の同人の方々が住せらるゝ境地や、その行履に憧憬を有せられ、どうかそれに達したいといふ願を以て入園、托鉢を行ぜられつゝある方も多いことでございませう。此の如き方々に對して、やゝもすれば下さるゝ批評は、精神なくして徒らに形式をのみ摸倣するものであるといふことでありますが、此の批難は少しく無理ではないかと思はれます。『形より神に入る』は、すべて學ぶ者の當然であつて、例へば詩や歌を學ぶにしても、始めは平々仄々の順に合はせ、五七五七七の數をそろへるのであります。專心規則に從つて修練しつゝある間に、いつしか其のコツに觸れ、其の妙諦を悟り、自由自在の三昧に達するに至るのでありませう。釋尊にしても、六個年の間は波羅門の方法に從つて修業せられてをつたものでありまして、苦心慘憺の間に圖らずも濶然大悟、新しき道を發見せられたのであります。獨創の天地を開闢するなどいはるゝもののうちには、始めは形に從ひ、樣を摸するの行

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

程を取られたるものも、決して少くないことを發見するのであります。されば先達の境に到らんことを希ひて、その行履をたどることは、寧ろ當然と申すべきでございませう。

但し、一心に托鉢の形ちを行じつゝある間に、何等かの機緣にふれて、偶然に靈的體驗の光明に觸るゝことがあるものでありますが、此の時、その體驗を輕々に看過せざることが肝要であると思ひます。例せば運動競技會に於ける高躍などの練習の折、偶然にも豫想以上の高さに躍び上ることがあつたといたします時、それは偶然と申せば偶然と申すものの、やはり自分の實力の發現に外ならぬことでありますから、正當に養成してまゐりますならば、必ずそれ丈の力を常にあらはすことが出來る筈であります。偶然の形ちを以て經驗いたしました靈的光明、縱しそれは極めて微弱なものでありましても、闇を照らす眞との光でありますから、誘惑の風に吹き消されぬやうに、また精進の油を絶やさぬやうにして、靈的體驗を存養すべきでありませう。譽められてをる時の謙遜は割合に容易でありますが、批難せられ、侮蔑せられつつある折の謙遜は中々に困難であるのであります。一燈園生活には春風駘蕩のみではございますまい。秋風蕭索、朔風凛烈をも期せねばならぬのでございます。下坐の奉仕、托鉢の修行には、なみならぬ決心を要することでございますが、いづれも一燈園同人の操守せんことを期しつゝある行相であります。

懺悔奉仕の托鉢の姿は決して一に限るべきものではありませんが、現に通常行はれてをる形は、報酬を要求することなしに、有緣に奉仕し、生活の問題は之をすべて人天の供養にまかすといふことになつてをります。之を方法的見地よりいたしますれば、これによりて靈的體驗に達せんが爲であります。蓋し靈的體驗を逃蔽する最も大なる障碍の一つは、人間の執知でありませう。而して人間の執知を催起する最も強き誘

因の一つは生活問題でありませう。室内に於ては、事なく徹つた無字の利劍も、生活問題に觸れては、忽ち變じてナマクラの鈍刀となること稀しくなく、何を食ひ、何を衣んと憂慮(おもひわづら)ふこと勿れとの金誡も、いつも明日の饅の心配に、その生命を失ひ去ることは、殆んど普通の狀態でありませう。萬有を動かしつゝある『生きんとする意志』に、その根抵を有する生活問題の暗礁には、如何なる大艦巨舶も觸れて碎けぬはないのであります。然るに下坐の奉仕を行じ、衣食の供養を人天に委することによりて、生活問題より解脫することを得ます時は、こゝに執知の根本を斷絕し、靈的體驗を開發するの機緣をも見出すことを得るのであります。

乍併、こゝに戒心を要しますことは、生活問題の解脫の修行に於ける方法的意義を忘卻し、以て靈的體驗の港に達することを忽諸にし、姑息偸安の無風帶に乘り入れることであります。生活問題の惱みを主なる機緣として托鉢生活に入る時、托鉢が、往々、所謂る『なまけ者の天國』となり了ることなきを保し難いとせられてをりますのも、托鉢そのものに安危兩機を包藏するが故でありませう。往相より見ましたる托鉢は、生活問題解決の一法でありますが、それは人間執知の禍根を斷絕することによりて靈的體驗を開かんとする所に意義があるのでありませう。もし托鉢が生活の姑息的安住を與ふるに止まり、靈的體驗の開發を閑却してをりますならば、その如き托鉢によりては一燈園生活の眞生命は活躍し來らぬのではありますまいか。

一燈園の托鉢生活に萬一上述の如き弊が伴ひ、また伴ふといふやうに批評せらるゝことがありとするならば、それは一燈園生活の本願の他の一面に、俗諦成就といふことのあるのを忘れたに起因するのではあるまいか。盲縞の筒袖、便所掃除の奇嬌をめづらしみ、地下水行のじみなる平凡生活を疎んじ、俗諦成就を閑却し去るならば、一燈園生活は、その存在價値の大半を失ふであらうと思ひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

一燈小話

松下吉衛

『まあ、ほんとにありがとうございました。あんなやさしい方つてありませんね。ごらんのとおり子供が多いのでしよう。ばあやにわ行かれる、女中わ急に縁談がまとまつたといつてひまをとる。けいあんや職業紹介所にいつてやつても、おちついていてもらえる人など、めつたにありわしませんし、私、ほんとにどうしようかと、とほうにくれていたところなんです。あの方に來ていたゞけなかつたら大へんでした。こんなに助かつたことわありませんよ。』

『そんなにおつしあられちや、おそれいります。どうかと存じましたが、ご主人からお女中さんがいなくなつてお困りのことおうかゞつたものですから、とりあえずあのHさんに御奉公ねがうことにいたしたのでした。』

『それわよくおつとめくださいますんです。お臺所からお坐敷のそうじから子供のせわから、一日中小休なくはたらいてくださるんで、家内中大よろこびでしてね。昨夜も主人と話したんですが、あの方がもすこしお若ければ、今中學え行つてる長男のよめに、ぜひ、いたゞきたいと思うくらいです。……あの方わ一燈園におはいりになつて、もうよほどご修行なすつたのですか？』

『いゝえ、つい昨今も昨今、實わお宅が托鉢のしはじめなのです。』

『まあ。一燈園にはいりますと、みなさんがすぐあゝやさしくおかわりになるのでしようか？』

『Hさんわ、性來が特別やさしいのかもしれませんが、どなたにしても、園におはいりになりますと、日々の實生活が今までとわ丸つきりかわりますので、たしかに氣持からしぐさから體のぐあいから食物のようなものまでも別人のようになる方が多いようです。』

『そうでございますか？』

『Hさんにも申上げたのでした、一燈園わこざかしい人になるところでもなければ、また技能おみがくことに重きおおいている場所でもありません。反對に、自分のおろかさおさとる道場、あさはかなちえのはたらきお封じて人間の本とうのすがたに歸る修行場であるのですから、鳥お白いといわれても、あゝそうですかと悪びれずうけながせるまでのすなおな人がらになりきることが大事です。今の人わ、りつぱな本およみ、いゝ話おきゝ、自分の考でわ、すつかりものゝ道理がわかつてるはずですが、やゝこしい家庭のごた〳〵や狂暴な社會の出來事が、こうひんぱんにくりかえされるところおみますと、頭の中の考だけでわかつたようになつていつも、ほんとうわ、わかつていないのかもしれません。一燈園わ人間の考にたよらない行き方おするのです、心わゆうまでもないこと、體ぐるみ生活までお、しつかい我がはからいによることお止めにして、無條件に神佛にさゝげてしまうのです。この新しい、今までとわ別な立場で、御縁お皆さんに結ばせてもらつて仕える、何なり身に叶う限りの御用おつとめる、――これが一燈園の修行の仕方であつて、托鉢とゆうのもつまりこのことなのです。托鉢先の家風お自分ぎめのものさしではかつたりなどすることわ決してゆるされません。どんな苦しい居にくい境遇にも、よくおちつけるようでしたら、まず一とおりの修行ができたといわれましよう。折角、一燈園までおいでになつたのですから、どうぞしつかり托鉢なさいますように……。私わHさんにたゞこれだけのことお申上げたきりで、もう托鉢にでていたゞいてしまつて、ものおしえ一つしたわけでわないのです。』

『ほんとに感心な方ですわ。どうしてああすなおにできるのでしょう？　學校わどのくらいなすつたのかしら。』

『高等小學卒業とかいつていました。』

『まあ。』

Hさんわ S州の山家そだち、しゃうにこ〳〵している無口な、どちらかといえば小柄な娘さんです。今も東京でそちこちとつゝましやかな托鉢ぶりお示しいられます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

武藏野道場の歌（上）

磯山松男

朝露

あけてゆく武藏大野やしさしさ丹塗(にぬり)の屋根に露はおきゐつ

樋の口の土しめれるはおのづから凝りてながれし屋根の露ならん

あかさきの光に映えてガラス戸にこゞれる露はしづくおちゆく

第一夜

新しく道のまなびやまぐまれぬ今宵初めて寢るがたぬしき

いそいそと焚けしランプ下げかへる田圃の道にこほろぎのなく

（托鉢先よりランプを拜借す）

十年あまり塵に埋れしものながらランプの光室にあかるく

青疊すべらが上に坐りゐてこころつつましくなりにけるかも

諸人のよろこび心今宵われひとりに持ちて寢れにけるかも

開扉式

けふけふと待ちにしその日遂に來たり心はづみて室きよめゐる

秋雨に傘かたぶけて待つ人のつぎつぎに來るこのうれしさよ

さいさいと降る雨の中に鳴りいづる木魚の音はたふさかりけり

天地にいのる心のひたこりてなりいづるものか木魚音する

展望

雨はるるあさぎの空の下にしてむらさきの山並み立てる見ゆ

しなのぢはいや遠からし山々の秀のかぎりさへ雲にまぎれつ

くれなゐに燃えたつ空を脊にして夕の不二よ靜もりふかし

夕空にかたちさゝのふ不二の山なめらかにひく裾のゆたけさ

宅邊

裏山の芒穗に出て夕あかし起きふししげく風にみだるゝ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

コスモスの盛りの花の下にして臥したる牛はひねもす動かず

（となりは牧場）

椽にゐて語りつゝをれば眼の前に牛あゆみ來てなきにけるかも

秋の日の深照りさびて笹藪の葉づれかそかにきこえ來るかも

あけ放つ窓に舞込む栗の葉は疊の上に落ちて散らばふ

或る夜

東京の空のあかるさよ前庭の芋葉夜風にゆらぎゐる見ゆ

托鉢

村人のわれを見止める眼ざしの羞かしくして下むきてゐる

むさし野の黑土のへにかゞまりて草引かんとす露の青草

この草はひきおくれたり手にふるるたちまち強く實をはじきたり

曇り來て舞ひ出るぶとのかずしれず今宵をまたず雨ふりいでむ

陽の入りて寒き野面やひゞきくる汽笛につれて牛のほえたる

野趣

午すぎて子等さわぐこゑしづまりぬあの方あたり學校なるらん

兵一騎かける蹄の音高く武藏野原にひびきわたらふ

寂心

むさし野の土にほのかにたちのぼるしづけきものにつゝまれてゐる

天わたる日のゆくえさへわするゝやひたに寂びしきこゝろ抱きて

托鉢（又）

こゝに來ていく日へにけん村人と今朝は親しくものいひにけり

幾日を草ひきすこし指のつめのへりたるならん今朝はいたしも

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

琵琶湖畔より

相武次郎

Hさん。いつも御親切なおたより身に泌みて有難く思ひます、早速御返事さしあげなければなりませんのに何かと用事に打ちまぎれがち、たま〳〵暇を得ても疲れて筆をとるのが億劫になつて心ならずも御無沙汰してしまひました。どうぞ御許し下さい。何かと申しますうちにまた冬がやつてまゐりました。毎度「一燈園だより」で塾の消息を拜見し、なつかしき皆樣の無事な御樣子を詳かにし、塾の平和な生活を胸のうちに想ひ浮べまして、此上なく嬉しく喜しく存じて居ります。御いとま致しましてかれこれ一年、こうして冬がまゐりますと今更のように塾にゐました時分のことが偲ばれて懷しさに胸が躍るので御座います。どんなに寒い朝でも五時かおそくても五時半には心を鬼にして柏子木を打ちましたつけ。私はよく竹箒をもつて暗い表通りを掃きましたが、暗い街燈に照されて藁屑や紙切れが霜がおいてゐる地べたに凍てついてゐました。掃除がすむと朝のおつとめ、たしまひの衆生無邊誓願度と讀みあげます頃にやつと朝日は東の山の端に姿をあらわし、柔い影を床の間の障子にうつしました。私はその時分のことを今もはつきり胸に浮べて居ります。

私の懷しい家族だちは今でもやつぱり此頃の寒空に暗いうちから起きて掃除をし、曉天の讀經をすませ、東の山の端にあらはれる朝日の第一線が障子に影をうつす頃にはもうあの尊い釋尊の御像に向つて合掌禮拜してゐることであらうと思ひ乍ら涙ぐましい氣持に沈むので御座います。なつかしい〳〵私の家族の人だちに、御光の惠みゆたかなれと祈らずに居られませぬ。私の貧しい愛のたつた一つの向け處の幸福を祈つても〳〵祈り足りない氣が致します。默つて箱をつくる兄弟だち、默つて台所する姉妹だち、默つて事務をとる兄弟だち、默つて針を運ぶ姉妹だち、あのさゝげきつた尊い床しい姿、あのまかせきつたゆるやかな屈托のない樣子、何の爲めにあんな生活をしてゐるのか、信ずればこそです、愛すればこそです、魂の奥の奥の消すに消されない願ひのために萬難を忍んであんな生活をやつてゐる、永遠の家庭といつたような

感じが致します。偉人なんか一人もゐない、凡人ぞろひだけれど、塾の凡人には光の中を歩むことが可能です、そうした家庭を惠まれた自分の淨福を思つて感謝せずにゐられません。堪え難い程の此の情熱をどうか私のなつかしい家族の人だちに傳へて下さい。皆さんのお祈りで私の身も心も幸福にあふれてゐるといふことを。

私は此地にまゐりましてざつと一年、その間に眞似ごとながら軒下に立つて行乞もしました。路頭の塵も掃ひました。神社の境内も掃除して歩きました。何日か草鞋の紐を解かずに過しもしました。けれどそんなことは特にどうといふこともなさそうです。一番大事なことは此の生活とあの生活とのはつきりしたけじめです。地獄と極樂の境ひ目です。私のなつかしい家族もこれだけははつきりの上にもはつきりするよう明けても暮れても念じて居ります。生存のための戰ひや生活のための扶け合ひが生物進化の原則として、今までどれだけ役だつて來、又現に役立つてゐるとしても、單なる生物以上に魂しひの目覺めまで進化した人類は、拜み合ふ生活の實現によつて今後更にすばらしい進化を遂げるであらうといふことを感じます。世間は生活のために戰つたり扶け合つたりしてゐる中に、私ども小さな家族は見かけは貧しくても、單なる生活の方便を超えて恩讐の彼方に、合掌の世界建設に向つて精進してゐます。若し機會があつたらこんなことについて書いて見たい氣がしてゐるのです。何時のことか分りませんがどうかお待ち下さい。もう年の瀨が迫つて來ました。あはたゞしい此頃、春着の托鉢で御針の人だちは御忙しいことでせう。八日には針供養をしましたか。あなた達の神聖な針の一運び一運びが深い魂しひの呼吸であるように祈つてやみません。可愛いゝ人だち。私の思ひが通るならば天上の幸福があなた達の目元に口邊にほゝ笑んでゐるでせう。去年のクリスマスは樂しう御座いましたが今年もどうか樂しくやつて下さい。私は許されたらせめて元日だけでも寄せて頂き度く思つて居ります。

時雨がさびしく降つて來ました。窓打つ風の音も高う御座います。これから寒くなることでせうが皆さん風ひかないように氣をつけて下さい。あまり御無沙汰したものですから一寸御うかゞひ致しました。ではこれで失禮いたします。

—大正一四・一二・一六日夜—

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

鷄林だより（一）

すゞき五ろう

滿洲を大連からハルビンまで六十日間に丁度百回の講演托鉢を了へて、歸途朝鮮總督府、鐵道局、修養團朝鮮聯合會等の御招ぎを受けて、朝鮮各地を御廻り下さる天香さん御一行を鴨綠江の對岸安東驛に御迎へしたのは、大正十四年の秋も正に暮れ様とする十一月二十日の朝で御座いました。

相變らず黑木綿の上張り姿の天香さんも、勝淳さん保光さんも、大連の小盜兒（ショウトル）市場で九圓何がしで仕入れた、流行遲れの支那服を大人然と着込んだ木魚さんも、皆さん長旅の御疲れも見えぬ元氣な御樣子に接して、心から悅しい思ひが致しました。

鴨綠江を境にして滿洲と朝鮮とでは時刻でも一時間の差があります、滿洲側の安東驛の六時は朝鮮側の新義洲驛の七時です。安東驛の發車時刻を朝鮮時間で計算して居たことに氣がついて、大あわてにあわてゝ天香さんに鴨綠江橋上をマラソン競爭をやつて頂いて新義洲驛まで汽車を追馳けて漸く飛び乘りました。これが入鮮第一の失敗で御座いました。

新義州驛を發すると直ぐに乘客携帶品に對する稅關吏の檢査がありました。殊に朝鮮獨立黨の巢窟と目されて居る東滿洲方面から入鮮の鮮人は、或る特種の使命を持つては居まいかと、衆人環視の車中で隨分峻嚴な身體檢査を受けて居りました。この樣な取扱ひを受けた人々や、これを眼のあたり見せられて居る同民族の人々が、統治者に對して何う云う風な感情を興こすだろうかと考へた時には思はず暗い氣持にさせ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

られました。朝鮮に對しても一燈園の負うて居る使命は深いとつく〴〵思はされました。

定州の講演を終えまして、同日深夜平壤驛に着いて驛前の鐵道宿舍に泊めて頂きました。翌朝平壤驛での講話を終りましてから、平壤府の方の御案内で最近有名な大同江畔に發掘中の樂浪の古墳を拜し、中から出た古鏡古劍を始め樣々な精巧な工藝品を見せて頂きまして、二千年以前に於ける漢族の文化の跡を偲んで唯々驚嘆するのみで御座いました。私などは死んだつて莫大な費用をかけて埋葬するなぞは愚の骨頂だ、すべからく燒いて粉にして川へでも流して貰ひたいと常々思つて居りますが、迷信であろうと何であろうと兎も角、二千年以前に貴重な美術品をむざ〳〵と惜し氣もなく死骸と一緒に埋めて呉れたばつかりに、今、私共が當時の文化の面影を眼のあたり見ることが出來る樣になつたと云ふことは、唯不思議と云ふより他に言葉がない。眞實に大自然のなさることに一つとして無駄はない。偶然と云はゞ云へ、自然の大きなはからひは、私などの小さな智慧では倒底想像もつかないとしみ〴〵感じさせられました。

二十二日は早朝鎭南浦へ參り商業會議所樓上での講演を終つて、同夜九時三十分に京城驛に着きました。總督府の園田樣、修養團の宇津木先生、鐵道局の星野樣、信澤樣御夫妻を初め多くの方々の御出迎へを頂きましたのには有り難く恐縮いたしました。

京城滯在の四日間は每日三回乃至四回の講演會が開かれました。一回少くも二時間の講演を一日四回も御續けなさるのは隨分御疲れのことゝハラハラ致しましたが、これでも講演申込みの三分の一は拜み倒して免して頂いたのに、猶

ほこの様に御無理を御願ひする結果になつたのは、當番としての私の不行屆の爲めと深く天香さんに御詫び致す次第で御座います。それだけに何の講演會も全くの滿員で、總ての方が聽講なさつたことを心から悦んで下さつたのは有り難いことで御座居ました。そして講演に寄せて頂いた範圍も上下隨分多方面に亘りました。或る日など總督府の會議室で大官方の前で講演をされた直ぐ一二時間後には、齋藤又吉さんの經營されている自覺社と云ふ一飯一床各五錢の簡易宿泊所で、數百の鮮人自由勞働者に取り圍まれながら、

『皆さんと私は兄弟です、着ている物も同じ様なものです。私は莚をかぶつて寝たこともあります……』

と、貧しき者の福音を説いて居る天香さんを見て、何方のお集りにもついて來た方が、

『今一番上へ行つて居るかと思ふと、たちまち一番下の方へ降りて居る。一燈園て本當にエレーベータの様ですな。』

と、仰つたのは、けだし適評だと思ひました。これと同じ様なことは汽車に乘る場合にもありました。鐵道局からは私共の爲に各等共通のパスを下さいました。それで私共は三等が隙いている時は三等に乘り、三等が混んで他の御邪魔になる様だと二等に移り、二等が一杯になると或は一等にさへ行つて、『御見送りの方は早く降りて下さい。』と、ボーイさんに叱られたこともありました。

『此處でも矢張り水の様にチョロチョロフと隙いた處へ流れ込むのですな。』

と、微苦笑をさせられました。

しかし、又一面、少しは他の方に窮屈な思ひをして頂いても、出來る丈けで下座に居て多くの方々と共に時代苦を苦しませて頂く方が本當ではあるまいかと云ふ説も出て、これは今度の旅行中での一つの公案で御座いました。

——一九二五・十二・十五——

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

未明の先驅者（四）

水上鐵治郎譯

五　ガリバルヂ

ガリベルヂの雷名は、赤シャツ隊とその花やかなりし活動の記憶と共に、今でも英國人には魅力のある響きを有して居る。當時の英國人は靡然としてその旗下に趨せたものであつた。ガリバルヂこそ、實にヴイクトリア女王朝のイギリスに於ける最も人望ありし人であつて、幾多の人士を奮起してイタリアの爲めに欣んで鬪ひ死地に臨ましめたのであつた。

一水夫の子と生れた彼は、夙にマッヂニからイタリア統一と共和主義の精神とを鼓吹され、弱冠早くも暴動罪に座して謫流せられ、ウルグワイ共和國に赴いて野武士の隊長として放浪の悲哀を味つたのである。彼がイタリアに歸國したのは、一八四八年折柄全歐洲の民衆は蹶起し、封建王朝は踵を接して倒壞する頃であつた。彼は、先づ當時オーストリアと抗爭しつゝあつたピードモント及びロンバルヂアに部下の精鋭を提供し、次いで新興ヴエネチア共和國の後援をした。彼の軍隊は重んぜられなかつた結果、大して活動の餘地もなく、且ピードモント軍は、クストワツアの一戰に大敗して、ミラノは再びオーストリア軍に歸するに至つた。

一八四九年二月全國の物情騷然たりし折柄、ローマ法王領の批政暴虐その極に達し、之に反抗して起つた彼は戰ひ利あらず、亡命するに至つたが、時しもローマ共和國建設の宣言傳はるに及んで、マッヂニと共に南方に脱走せる彼は、新共和國に投じたのであつた。斯くてガリバルヂは古都防衛の任を帶び、マッヂニは正式

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

にその統治の大權を掌握するに至つた。

　マッチニの政治は、宣言以外の力によらなかつた。しかも苟しくも國家にして斯くまで壓迫の力を用ひず、唯その頭首の高潔なる人格のみによつてよく統治の實を擧げ得た例は、古往今來絕無と云へるであらう。マッチニのローマ共和國こそ、實にその後幾多の一々をして理想の極致として仰がしむるに至つたもので、その生命こそ僅かに前後五ケ月にすぎなかつたが、その間この一都市の生活を見るに、紀綱肅然として、仁政遍ねく民を潤ほし、しかも敬虔傍人をして襟を正さしむるが如き理想境を實現し得たのであつた。

　しかしながらローマには正規軍としては一兵もなかつた。たのむは唯民衆と僅かの軍人、それとても一萬には達せざる數であつた。

　斯く防備薄弱なる一小共和國を陷れんことの容易なるは云ふまでもなかつた。從つて問題は、誰が手に落ちるかにすぎなかつた。オーストリアは甚しく後手に廻つた爲め、先づ兵を發したのはナポリ王國であつた。しかし先頭第一に到着したのは奸黠なるナポレオン三世が派遣せるフランス軍の一隊であつた。全軍は焦々とローマ城壁下に迫つて行つた。しかるに思ひきや、さしものフランスの精銳も一戰の後退却して、海に走せざるを得ざりしとは。ローマ軍には、果して如何なる金剛力士が潛んで居つたのであらうか。

　次いでローマでは『兵』を派してナポリ王の進擊を阻止せしめた。ナポリ軍は、兵勢に於ては僅かにローマの二倍にすぎなかつたので、ローマ軍は忽ちにして之を一掃してしまつた。斯くしてガリバルヂは直ちに引返してフランス軍に當つた。

　包圍軍の戰鬪準備はその時既に完備して、軍勢は雲霞の如く、銃砲亦無數であつた。ローマ軍がいかに心細かつたかは、當時彼等の唯一の賴みとしたのは、全戰線の四分の三に亘つてアウレリアス皇帝が一千年前ゴト軍を防がんとして築いた城壁があつたのみだつたによつて知る

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ことが出來よう。

包圍戰の費用は莫大であつた。ローマは七月三日に至るまで陷落しなかつた。アイルランドに於けるコノリーの無謀な企てがやがてシン・フェイン黨の最終の勝利を博すべき第一歩であつた如く、當時のガリバルヂの奮鬪は一八六〇年に至つて酬ひらるゝことを得たのであつた。

同年ピードモント軍がオーストラリア軍を擊退しつゝあつた時、ガリバルヂは一千の精銳を率ひてシチリアに上陸した。島内の守備兵は二萬四千であつたが、壯烈なる決戰の結果、之を潰滅して、ナポリ王國恢復前に本土に還つた彼は、ローマ軍を募つて、遂にブルボン家最後の王朝を長靴半島から逐放し得たのである。

ピードモント王の軍勢の南進して、ガリバルヂの共和黨軍と相對峙した時、ガリバルヂの心緒は亂れて、施すべき術を知らなかつた。イタリア統一と民主々義とは、兩軍の等しく志すところであつた。戰ふべきか、否か。是に於てガリバルヂはピードモントのヴイクトル・エンマニエルを仰いでイタリア國王に推戴したのであつた。この事がやがてガリバルヂが、マッヂニによつて國賊として仇敵視さるゝに至つた所以である。

この老勇士は晩年に及んで勞働者階級の味方となり、或ひは『インターナショナル』を支持し、或はパリ・コンミユンの後援をして盡瘁するところがつた。その原因が那邊にあつたかは、恐らく彼自身も知らなかつたであらう。事實、そんなことは彼の知り得ざることであつた。彼自身が斯くなりし理由として說明したのは穩和なる理想家マッヂニの精神的暴虐に對する反感であつたといふ。

マッヂニが全然實際的でなかつたのに反して、ガリバルヂは徹底的の實際家であつた。本能によつて行動した彼には、智慮を必要としなかつた。『あの男は、頑迷不靈の偉大なる英雄』だとは、詩人テニソンが、ガリバルヂの主義や根本原理を論ずるの能力なきを嘆いた言葉であつた。『獅子のやうな顏をしてゐる』とは、ガリバルヂ崇拜者の一人が、彼をば獸王の無表情な面貌と比較して云つた忌憚なき評言であつた。斯く鈍重なりしガリバルヂの本能は、よく彼を正處に導いて、他の總明叡智を以てしてよくなし得ざりしところをなさしめたのであつた。

英國社會運動史（三）

松下吉衞

四　生きんとする喘ぎ（上）

結社禁止法　英國の法制に、初めて勞働者の結社禁止法の現れたのは、一三〇四—五年エドワード一世即位第三十三年に徒黨刑罰法の制定された時である。爾來、幾多の改廢が相次いで行はれたが、一八一七年ジョージ三世即位第五十七年に於ける法制には、結社法令の數、實に三十四の多さを算するに至つた。この間、五百十有餘年。立憲政治の本源を成せる國柄でありながら、後法は前法より峻嚴を加へ來れる事實は注目に値する。例へば、一八〇〇年の結社法は、一七九九年のものより峻嚴を加へて居り、翌一八〇一年制定のものは、更にその度を增してをる如き、その著しき例證となすに足りる。

今、試みに、一八〇〇年乃至一八二四年の間に實施された結社禁止法の要領を擧げるなら、

(一)　勞働者が、ある賃銀率によるのでなければ勞働しないといふことや、他人の着手した仕事は之を完成しないといふことや、又はある時間ある時期のほか勞働しないといふことを、他の勞働者と申合せた場合には、これを徒黨と認める。そして初犯者には十ポンドの罰金を課し、もし六日以

内に納めなければ二十一日間の禁錮に處する。再犯者には二十ポンドの罰金を課し、滯納の場合には頭手架を架する。三犯者には四十ポンドの罰金を課し、滯納の場合には、その耳を剪る。

(二) 賃銀値上、勞働時間短縮、仕事の分量輕減等につき、又は他人の就職を妨げる目的を以て、勞働者製造業者等の間に結ばれた契約は、凡て違法であり無效である。

(三) 勞働者は前記の如き違法の契約に關與してはならない。かゝる契約をなした後、三ヶ月以內に自首すれば、三ヶ月以內の禁錮に處するか、若しくは二ヶ月以內の懲役を課する。

(四) 勞働者にして、賃銀値上、勞働時間短縮、仕事の分量輕減、其他本法に違背する目的を以て結社を作すもの、他人に金錢を與へ勸誘懇請脅迫其他の方法により、失職者求職者の就職を妨げるもの、前記の目的を以て勸誘脅迫其他人の意志を左右する方法により現に就職しつゝある者をして其職を失はしめるもの、製造業者が適當と認めた職工を雇傭せんとするのを妨げるもの、ある職業に就ける勞働者にして正當の事由なく他の勞働者と共働するを拒むもの等は、前項と同じ刑罰に處する。

(五) 勞働者にして本法に違背する契約を結び、不法なる目的を持てる結社をつくるための集會に出席し、勸誘懇請脅迫其他の方法により他人をかゝる集會に出席せしめ、又はかゝる結社を成立せしむるために金錢を醵出したものも亦同じである。

十九世紀に入りながら、かうした人權を無視する過酷な法令が、實施されてゐたのは、實に驚くべきことであり、かのサー・トーマス・アースキン・メーの如き、その名著『英國憲法史』に於て『今や

壓迫的法制は完成された。吾等は、悲嘆の感なくして之に對することが出來ない。英國の誇ある民主的憲法も、かうして、中止されて了つた。』と、慨嘆してゐる。

思ふに當時の英國は、ナポレオン戰爭に際會して、所謂國家多事の秋であつたから、支配階級資本家側では、結社を背景とする勞働運動に伴ふ騷擾の爲めに、政治上社會上に動搖不安の惹起されることを、ひどく憂慮して居たし、それに、賃銀補給制が不完全ながらも實施されて居つて、勞働者の收得する賃銀にして治安判事の相當と認めた賃銀額に充たないときは、其差額だけ地方稅中より支辨し、勞働者に社會生活の最低限度を保證することになつて居たので、勞働者自ら結社の力を通して賃銀値上等を强要するが如きは、怪しからぬことゝ考へられたのであらう。

結社禁止法の苛酷　されば、フランシス・プレースはかう書いてゐる、『結社禁止法は當時の資本階級支配階級には絕對に必要だつたので、若しこれなかりせば、帝國の貿易、製造業、商業、及び農業は、悉く衰退して了ふと信ぜられてゐた。………かうした思潮は、勞働者を最も節制のない人達となす結論に導き、從つて雇主と勞働者との間に、永續せる惡意猜疑その他殆んどあらゆる方法による不法行爲を生ぜしめた。而かもこの謬想は、勞働者が、賃銀もしくは勞働時間を規定せんとして團結した爲に處罰された場合、その判決が如何に苛酷であらうと、その處刑が如何に殘忍であらうと、世上多くこの不幸なる受刑者に對して憐愍の情を示すものがなかつたほど普遍的であつた。正義は殆んど顧みられなかつたといつてもよく、勞働者が奉行の審問を受けることすら極めて稀にしか許されず、そのたま〳〵審問を受ける場合でも、堪へがたき侮辱を加へられた。條理ある判決の如きは、云

ふまでもなく、期待することが出來なかつた。……若し奉行の審問、スコットランド高等民事裁判所、及び王座裁判所等の法廷に於ける公判の模樣を、正確に記述することが出來たとするなら、そこに行はれた甚しき不正、厭はしき凌辱、恐るべき刑罰等は、最善の證據を示さない限り數年の後には、容易く事實と信ぜられぬ程のものであつたであらう。

『一八一〇年、タイムス紙に傭はれてゐた印刷職人に對する殘忍な處刑の如き、殆んど信じがたいものであつた。彼等の中の或る者に宣告を下した判事は、「血に渇したブラック・ジャック」の綽名で通つてゐた倫敦市次席判事のサア・ジョン・シリヴェスタアであつた。……如何な判事でも、この判事ほど、その毒手に落ちてきた眞に尊敬すべき人達を戰慄させ、これに對して苛酷な判決を下す爲に、彼等の犯罪が最大なる兇行であるかの如く見せかけんとして、恥づべき苦心と努力とを惜しまなかつた判事はなかつた。』

尙、二三の例證をあげるなら、一八一六年十二月の『シェフォールド・アイリス』誌によれば、剪刀磨工七名は、彼等が『不幸救濟倶樂部』と稱して、失業救濟金を支拂ひ、且、慣習的賃銀率を維持せんとする團體に屬した爲に、三ヶ月の禁錮に處せられた。

一八一七年十二月、ボルトンの警部等は、偶然、英國各地方の更紗染工代表者十名が、正月元旦に會合せんとしてゐるのを探知して、彼等を捕縛しその書類を押收した。その時、彼等とその雇主等との間には何等の紛爭もなかつたのに、彼等は各三ヶ月の禁錮刑を受けた。

一八一八年にボルトンのある工場主が、その職工等に向つて、通り相場以下の賃銀しか支拂はない

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

雇主には使つて貰はぬ方がよいから、その相談會を開いてはどうかと勸めた。その結果、職工の代表者四十名のものが會合を催し、既に善良な雇主が同意してゐる賃銀の增加を要求することに決した。然るに、二週間の後、會長と書記二名とは逮捕されて徒黨罪として告發された。彼等の雇主は、彼等のために集會を開かんことを要求し、且彼等の決議を是認せる旨、立證したにも拘らず各一年乃至二年の入獄に處せられた。

一八一九年、マンチェスタアの綿絲紡績五十名は、仲間の死者を葬むる爲め、義捐金を募集せんとして集合したとて、委員室に於て巡査に捕へられ、徒黨罪として告發されたが保釋は許されず、三四ケ月入獄の後、公判に附せられ、同地方の裁判所員は、總掛りでその審問に當つた。倫敦其他で、彼等を援助せんとて、資金の募集が行はれた。彼等の倶樂部を共濟組合として登錄したことも、裁判上、別段彼等を益しはしなかつた。法廷に於て、『一切の組合は、共濟組合であらうが何であらうが、英國民が國家に陰謀を企てる唯一の口實たるにすぎない。』と論斷され、彼等の大部分は、それぐ異なつた刑期の禁錮に處せられた。

かうして、一々その實例を列擧すれば限りもないが、かの『靜かなる暴風』の襲來を受けて、頻々たる賃銀低下、作業工程の急變、成年男工に對する女工勞働兒の代用等により、慘らしい貧窮に陷れられ、經濟的壓迫を殆んど極度に蒙りつゝあつた當時の勞働者階級が、唯一の血路と賴む團結結社の權利を、曾て試しなき苛酷な新法によつて剝奪嚴禁されて了つて如何ばかり困惑苦惱し、而して勝策なき惡戰を續けるのに何程の犧牲を拂はされたかは、上記の諸例で、略これを察知することが出來る

であらう。かくて**生きんとする喘ぎ**は、彼等勞働者に秘密結社を組織する外、對策なからしめ、恐ろしい宣誓、神秘的な入會式、時には子供らしき時には犯罪的な煽動等を流行せしむるに至つた。

例證を石炭坑夫にとるなら、彼等は、スコツトランドに於ては、一七九九年農奴解放令の發布されるまで、事實、農奴制の下にあつたし、西部イングランドに於ては、一年契約、物品賃銀制、量目不足に對する勝手な罰金制等を強ひられて、全く從屬的地位に繋がれて居つた。彼等が窮乏に堪へかねて騷擾を企てたことは實に頻繁であつた。これが鎭壓には屢軍隊の出動さへ見た。遂に、『たゞ生きるだけの賃銀を維持せんとする熱烈な努力』として、かの一八一〇年の大同盟罷工が誓ひを立てた徒黨に依つて斷行されることになつた。その徒黨といふのは『最も嚴肅な宣誓により、心臟を刺されるか、又は腹部を割かれる刑罰の下に、黨員は、黨の命令に絕對服從の義務を擔つてゐる所から』その名稱の生じた『兄弟分交際』の方法によつて組織されたものである。

かうした暴動や陰謀を頻發せしめた秘密結社は、どちらかといへば、高給の職工の間に、驚くべき速度を以て傳播していつた。之に對する當時の雇主等の、飾氣のない驚駭の模樣を、今日に於て知らんとすることは困難とされてゐるが、國會に於ける委員會に出席した親分の證人や勞働者に徒黨罪の判決を下さんとする判事が、治者階級に對する『陰謀』の廣く行はれて居ることを證明する爲めに擧示した幾多の實例に徵しても、略之を推測するに難くはない。

又、仕事を求めて一地方から他地方へと轉々放浪することが平常となつてゐる種類の勞働者は久し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

い以前から、不完全ながらも、全國に亘つた或る種の聯合團體を形づくつてゐた。革工、製帽工、更紗染工、梳毛工、羊毛工、其他手工職工の種々な團體の如き、職業上の問題に關して絕えず通信を交換したり醵金したりしてゐた。

一八一八年、ボルトンの警部に檢擧された爲め世間に知れ亘つたのであるが、更紗染工の如きは每年會合すると代表者と、地理的管區とが、精細に規定された全國的團體を有してゐた。一八〇三年に出來た製紙工組合も、イングランドを五區に分ち、その代議制度と團體的行動とに關しては詳細を極めた規定を有してゐた。この種の全國的團體は、禁止法の存在にも拘らず、實際上の勢力は、漸次、强大になつた。一例を一八二三年に於けるリヴァプールの索繩紡績工にとるなら、ある會社が職工を雇傭せんとした時、索繩紡績工地方組合は、それが職業の規定に違反するものである旨、組合員に通知を發して、悉く罷工させた。會社側では、リヴァプールで職工を得ることが出來ないものだから、ハル、ニゥキャッスルまで人を派して更に之を求めんとしたが、既に同地方の職工俱樂部にも、索繩紡績工組合から通知狀が回つてゐたことを發見した。會社は、やむなく、グラスゴウから罷工破り(ブラックレッグス)を輸入するの窮策に出でたところ、彼等は到着と同時に地方組合員にむかへられて職工俱樂部の集會所に連れ込まれ、脅かされたり宥められたりした結果、遂に雇傭契約を破棄して了つた。最後に、會社の支配人が索を買ひにロンドンに行つたら、その索は、罷工中の工場に用ひられるものと知られて、とう／＼目的を達することが出來なかつた。

かうした共同團體は、一職業内の運動に止まらず、雇主に對する紛爭の場合など、團體相互に援助

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

し合つた。現にロンドンの金箔職の小組合の如き、一八一〇年乃至一二年の三年間に、總計二百ポンドの巨額を、十四以上のもの他の團體に貸したり贈つたりして居る。

かうして、雜多な職業に屬する勞働者の間に、一致團結の精神は、產業的混亂と政治的抑壓との時代にも拘らず、益顯著となつて來て、一八二〇年代には、諸所の產業中心地の賃銀勞働者は、從來の孤立的な對資本家紛爭が、階級鬪爭にまで擴大しつゝある事を、愈、意識するに至つたのである。

○表紙題字

西鄕隆盛翁の眞筆、東京市外、洗足池畔勝海舟翁の建てられたる碑文の中よりいたゞきました。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

東京一燈園

武藏野道場より

谷田部信量

武藏野の村家を圍む杜、起伏せる丘陵に立つ林の樹々みな紅葉して一時に燃え立ち、晴れ渡りたる日の朝などさへやうもなき美しき眺めに候えしが束の間にもう凋落のあと見えて、風なきに散る朽葉の音も幽に、或は時に風梢を渡り、枯葉天に舞い、日々に樹頭の骨露われ、幹枝見すき、かくれたる茅屋根の家もすかし見らるるやうにも相成候て、老いたる武藏野の姿一しほに寂しく感ぜられ候。自然に盡き行く命の死の莊厳を思わせらるるやうにも感ぜられ粛然たる氣分も起され申候。

園はこの靜かなる環境 うちに惠まれ居り候。只今は常住される同人は七八名に御座候ふて、日々の行持は、朝五時半起床、掃除、靜坐、讀經、六時半頃より托鉢に、この頃はお留守番もなく、みなして出掛け申候。

托鉢先は、附近の農家を主に、市内の御縁先、東京市療養所などに候。大抵晩は七時半ころ迄に歸園、八時半から夜の靜坐、讀經、のち一時間程は、托鉢のあとを話り合ひ、或は、讀書などして、十時に床に就かせて貰ふことに相成り居り候。

月二回の同人會のうち、一日は清遊を兼ねてこちらに集ふことに相成り居り、同人の會する日が樂しみに待たれ候。本十二月は八日第二日曜に催ふされ候。秋たけなわなる武藏野を一同にて逍遥仕り候。夜は、同人會の課題として一燈園生活と家庭問題等に就いて練り合い申候。

當地は練馬大根の産地の中心に候ふて、大根を第一に、東京行の野菜類など主に作られ、地層厚く、豊かなる地がふくらみ、大地への親みを特に感ぜられる所にて候。

托鉢に就ては、所謂處女地、初めてうちは色々にとり沙汰せられ、時には物盗りの類かなど警戒されしことなども有之候へども、このごろはだん〳〵に了解せられ、村人への親しみ日に〳〵深まり、方々によろこび迎えられ居り候。手足りなく、同人惠れ、ばと存ぜられ候。

知らぬ土地に來て、知らぬ人に會い、直に親しまれ、よろこばれ、どこかに魂の交渉の開かれるもの、この生活より鮮かなる無きを感じさせられ、持たず、執せず、下座のくらしの廣さ、力強さ、自然無碍なる姿の尊く、ありがたく、惠れたるわが生をしみじみと感謝させられ、無限の歡喜覺え申候。

このごろは稻刈やうやく終り、澤庵大根を畑より拔き、洗ひ、縄にて編み、矢來にかけて干すことなど始まり、これに托鉢させて貰い居り候。寒風吹きすさみ、かれ葉地をまいて走るやうな日がよくかわく由にて、そのやうな日を選びて洗われるとか聞き、寒さ今より思ひやられる次第にて候。

美的百姓にはあらず、趣味の爲に五坪の土地を耕すにはあらず、生活ぐるみ百姓さんに同じての奉仕に候へば、慣れぬ業なか〳〵に骨も折れ申候。終日こゞみてやる仕事の腰のいたさは又角別に御座候へども、腰をのばしながら目を擧げて大自然の風光に眺め入るのよろこびも有之候。田園に耕する人の幸いげなる姿をかつて畫中の人として眺めしこと有之候へしに、今自らその畫中の人となり日々自然に親しみて暮し居る惠れたるこのごろを樂しまれ候。さあれ、田園に耕して遁世のくらしをおくると云ふにはあらず候。いつにても呼ばれるまゝに混雜の地も辭せざる覺悟充分有之候うは申すまでもなき次第に御座候。敬具。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

みなさんの御安泰をおいのり申上げます

合掌恭禮

大正十五年正月元旦

一燈園　働く者の家

燈影塾　子供の家

回光社　光の友の會

謹賀新年

神戸市加納町六ノ二九

三宅右一

大正十二年十二月二十四日第三種郵便物認可　毎月一回十五日發行　「光」第四十九號

發行兼印刷人　京都市烏丸頭小山下總町五回光社内　西田保太郎

編輯人　東京市本所區林町二ノ七八同勞會内　松下吉衞

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN